

炭鉱事故 伝える使命

北炭夕張新鉱ガス爆発40年



石炭博物館の近くで坑道の跡地を説明する安部さん(14日、北海道夕張市で)

83歳元坑内員語り続ける

93人が犠牲になった北海道夕張市の北炭夕張新鉱ガス爆発事故から、16日で40年を迎える。人口減と高齢化が進む中、事故の記憶を後世に伝えようと、語り部を続ける元坑内員がいる。

「安部ちゃんはやまで石炭を掘ってたから、筋肉もりもりなんだぞ」

14日、夕張市の石炭博物館の近くで、安部さん(83)が二つの腕を見せると、校外学習の中学生たちは「うちのおじいちゃんも元だ」と驚きを覚えた。安部さんは、事故の記憶を後世に伝えようと、語り部を続ける元坑内員だ。

「安部ちゃんはやまで石炭を掘ってたから、筋肉もりもりなんだぞ」

14日、夕張市の石炭博物館の近くで、安部さん(83)が二つの腕を見せると、校外学習の中学生たちは「うちのおじいちゃんも元だ」と驚きを覚えた。安部さんは、事故の記憶を後世に伝えようと、語り部を続ける元坑内員だ。

北炭夕張新鉱ガス爆発事故は、1981年10月16日午後、坑道でメタンガスが突出し、火災が発生。約3300人の坑道でメタンガスが突出し、火災が発生。約3300人の坑道でメタンガスが突出し、火災が発生。約3300人の坑道でメタンガスが突出し、火災が発生。

「あつたよ」と告げられた直後、黒灰色の煙が押し寄せてきた。安部さんは、入気口近くでいたため、意識が回復。倒れていた仲間を助け、エレベーターで脱出した。安部さんは仲間を助け、エレベーターで脱出した。安部さんは仲間を助け、エレベーターで脱出した。

「あつたよ」と告げられた直後、黒灰色の煙が押し寄せてきた。安部さんは、入気口近くでいたため、意識が回復。倒れていた仲間を助け、エレベーターで脱出した。安部さんは仲間を助け、エレベーターで脱出した。

10月16日 きのうの歴史

1981年 ▶▶ 北炭夕張事故

夕張市の北炭夕張新鉱地下約800mの坑道でメタンガスが噴出、火災も発生した。その後、安否が不明の作業員や救出隊員を残したまま、注水して鎮火させたが、93人が死亡した。同鉱は年末に倒産し、炭鉱は翌年閉山した。

北炭夕張新鉱事故40年

帰らぬ友 記憶の中に



93人が亡くなった北炭夕張新鉱ガス爆発事故から16日、40年を迎える。遺体の事故現場は、最大規模の捜索を行った。夕張市の石炭産業は、かつての栄華をしのび、事故の記憶を継ぐ。

元坑内員「昨日までバカ話」

「あいつがまだ戻ってこないよ」と、安部さんは語り続ける。事故当日、仲間を助け、エレベーターで脱出した。安部さんは仲間を助け、エレベーターで脱出した。

元指揮官「遺体、知った顔ばかり」

「あの時、みんなが死んだ」と、安部さんは語り続ける。事故当日、仲間を助け、エレベーターで脱出した。安部さんは仲間を助け、エレベーターで脱出した。

市民団体が「炭鉱の悲劇語り継ぐ」

「炭鉱の歴史を語り継ぐ」と、市民団体が活動している。事故当日、仲間を助け、エレベーターで脱出した。安部さんは仲間を助け、エレベーターで脱出した。

炭鉱の悲劇語り継ぐ

北炭夕張新鉱事故40年



市民団体のメンバーが、事故現場の跡地を訪れ、犠牲者を追悼する。

市民団体のメンバーが、事故現場の跡地を訪れ、犠牲者を追悼する。市民団体のメンバーが、事故現場の跡地を訪れ、犠牲者を追悼する。

市民団体が「炭鉱の悲劇語り継ぐ」

「炭鉱の歴史を語り継ぐ」と、市民団体が活動している。事故当日、仲間を助け、エレベーターで脱出した。安部さんは仲間を助け、エレベーターで脱出した。

夕張新炭鉱事故 40年迎えるシンポジウム

夕張市で起きた「北炭夕張新炭鉱ガス爆発事故」から40年を迎える。記念シンポジウムが16日、同市内で開催された。市民ら約70人が参加し、大惨事の記憶を継承していきこうの思いを新たにしました。

夕張新炭鉱事故犠牲者の慰霊碑を顕彰する参加者。夕張市で、市民ら約70人が参加し、大惨事の記憶を継承していきこうの思いを新たにしました。